

【2010年度JCAS共同企画講義 実施報告】

●〈カタストロフィ〉を生きる：地域文化研究から見る災いの経験

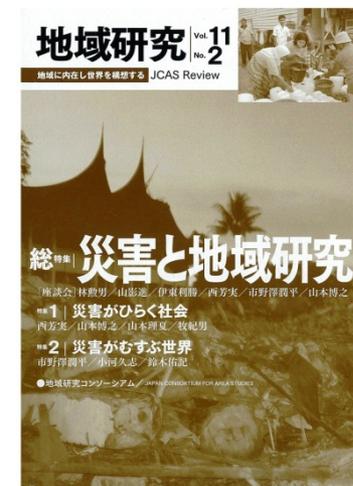
● 『地域研究』第11巻第2号刊行

共同企画講義から生まれた特集企画

(総特集 「災害と地域研究」)

座談会 人類学、国際関係論、歴史学が災害をどう語りうるか

特集1 防災スマトラ・モデルの試み



● 前年度の講義実績を踏まえ、実施大学(東京大学・地域文化研究専攻)の教員を大幅に加え、テーマを拡大して組織

災害を直接の専門としない人文社会科学系の研究者が災害にアプローチする可能性を開く

本村凌二「ポンペイ最後の日」／森山工「被植民地化というカタストロフィ：旧フランス植民地の経験から」／鈴木啓二・数森寛子「文学はカタストロフィを描きうるか：ヴィクトル・ユゴーの場合」／網野徹哉「カタストロフィとしてのアンデス征服」／三谷博「カタストロフィの予測と記憶：日本から環太平洋・世界へ」／福武慎太郎「紛争後の混乱期における難民理解のバイアス：東ティモールにおける住民投票後の騒乱と難民問題を事例に」／東大作「トラウマを超え社会変革を目指す人々：犯罪被害者と戦争被害者の調査から」